ふるさと(霞ヶ浦を中心とした周辺地域)の歴史・文化の再発見と創造を考える

ふるさと



第137号 (2017年10月)

風に吹かれて(11)

白井啓治

・早う去れ 邪魔な雲よと月の言う

が起こっている。

が起こっている。

が起こっている。

が起こっている。

が起こっている。

が起こっている。

が起こっている。

が起こっている。

満天の星空の中を静かに航行する船のような三

達だけであろう。
をの最たるものが衆議院の解散総選挙であろう。
その最たるものが衆議院の解散総選挙である。
をの無駄遣いも甚だしない解散総選挙である。
税金の無駄遣いも甚だしばのための解散総選挙なのか大義も何も見えてこ

だろうにと思う。相が四年なら四年の期間務めることにすると良い選挙で。途中で辞任してもアメリカのように副首制にするがいいだろうと思う。それも国民の直接利が国の首相も大統領選挙と同様な、完全任期

議院はいらないだろう。だろうと思う。今のような国会運営であれば、参だろうと思う。今のような国会運営であれば、参をするのだから全国区一本にするというのが良い徹底的な地方分権にして、国会議員は国の運営

うと。

「いつもおかしな話だと思いながら新聞などのニースをみているが、憲法改正を唱えている自民ュースをみているが、憲法改正を唱えている自民ュースをみているが、憲法改正を唱えている自民

っているかと思うと、ちょっと笑えない。のでいるかと思うと、ちょっと笑えない。子供のころがと、個人的には不思議でならない。子供のころがと、個人的には不思議でならない。子供のころがと、個人的には不思議でならない。子供のころがと、個人的には不思議でならない。

とばかりのように思えるのだが。これはもう滅びるしかないのだろうな、というこに到達したのだろうか。右を見ても左を見ても、論に読んだが、まさしく今人間は進化の極大化点論といの極大化した種は滅びる、とは何かの進化

もやります、これもやります、何でもやりますのてもらいたいものである。とはいうものの、あれが国の長を決める選挙での政策論争を活発化させるが、地方分権を加速させていくためには、おらが一挙に萎んでしまったが、国政選挙も重大であ変然の衆議院解散で、当石岡市の市長選の話題

政策論だけはご勘弁願いたいものである。

かった。

ではなかったのでかなり心配していたのだが、良米の味であった。庭の菜園はあまり出来の良い年地元産の新米をもらい安心した。例年に変わらぬ地元産の天候不順で、米の出来が気になっていたが、

新米が届いたので、庭にやってくる雀らに玄米 新米が届いたので、庭にやってくる雀らに玄米 ではなく精米した旧米を撒いてやるとよく食べる ではなく精米した旧米を撒いてやるとよく食べる でしまった。白米は味がなく栄養価が低いことを 雀らは知っているようだ。しかし、不思議なこと でしまった。白米は味がなく栄養価が低いことを でしまった。白米は味がなく栄養価が低いことを でしまった。白米は味がなく、庭にやってくる雀らに玄米 新米が届いたので、庭にやってくる雀らに玄米

石岡の祭りが終わり、日没の早さと同時に寒さも駆け足を始めた。我が家には保護した14~15も駆け足を始めた。我が家には保護した14~15も駆け足を始めた。我が家には保護した14~15を心の懐に抱かれるようにして寝るようになった。さんの懐に抱かれるようにして寝るようになった。さんの懐に抱かれるようでしていると、弟が遊ぼうと寄って行っても、煩いとパンチする。しかし、弟の餌皿に餌が無くなっていると、必ず餌がない早く入れろ、と小生に命令する。

である。 り、世話で終了するが、ボケ防止の有り難い家族り、世話で終了するが、ボケ防止の有り難い家族・小生の一日は、このワンニャン 3s の世話に始ま

地域に眠る埋もれた歴史(31) 木村進

10 茨城廃寺・舟塚山古墳方面 金剛院十一面観音座像 $\widehat{4}$



·面観世音坐像 (彫刻)

県指定有形文化財

居跡18軒,掘立柱建物跡4棟などが見つかってい な筑波山と恋瀬川をのぞむ標高7~ 19 mの台地 このあたりは、 社)の丘の前を霞ヶ浦方向に少し下ったところだ。 にひっそりとある。石岡外城 古墳時代(1400 年ほど前)から平安時代の竪穴住 して平成15年から4回の発掘調査が行われた。 上に立地しており、「田島遺跡(三面寺地区)」と 金剛院十一面観世音座像 豊かな田園風景の中に、 (木造) (岡田神社・札掛神 は、 田島地区 西に雄大

当時の人々が近くを流れる恋瀬川流域で河川漁労 った天台宗廻向山三面寺(廃寺)の本尊でした。 を盛んに行っていたことも判明しています。 金剛院の十一面観世音坐像は、 もと田島台にあ

> 戸末期の補修と思われる。 腕・天衣・膝前などは江戸中期、台座・光背は江 メートル。本躯部は鎌倉末期から南北朝の作、 檜材寄木造で、像高は113センチ 両

ある。 古の仏像で、 面観音立像(市内若宮)と並び市内においては最 躯部の古い部分は保存状態も良く、県指定十一 (現地説明看板より) 仏教美術を知るうえで貴重な資料で

と書かれていました。 時半から10時までとのこと。 ご開帳は、正月、2月の節分、 入口に手水鉢のような石が置かれており、 5月1日の午前5 化粧石

昭和62年12月吉日」と書かれていました。 がふれるとみ目麗しくなるとの言い伝えあり。 成の寄進によるものと言われる。この石に婦女子 僧の使用する化粧石なり。国府の役人飛島・・・ 説明では「その昔、今を去る千百年国分尼寺の尼 はないかと思われます。 しかし、その形を見るとどうやら茨城廃寺礎石で

歴史に埋もれた悲劇

11

勢堂(こうのぜいどう)といわれて今に残ると記 義を重んじる軍兵20人はその場で切腹して果て けたが、近くの中津川台に到着して三村城を望め 果てた。「南城実録・三村記」によれば三村城の危 たといいます。後にここに一字が建てられ ばすでに城は真赤な炎をあげて燃えていた。 急を聞きつけ、府中城より軍勢300余が駆けつ も落ち延びようとして城の近くで落馬し切腹して によれば、「三村城は 1573 年に落城し、 昭和36年発行の「図説 石岡市史」の記載内容 城主常春 「高野

> 間 (1688-1703) に建てられた六地蔵が残るとなっ れていました。 本来は「国府(こう)勢堂」であろう」と紹介さ ています。高野勢堂は香勢堂とも書かれているが されています。その後、堂宇はなくなり、



その として地元で管理されていました。 昔は個人所有の墓地であったが、現在は共同墓地 う上の道ではなく崖に沿った下の道にあります。 「香勢堂」と六地蔵が高浜駅から石岡 へ向か

れいにしたとのこと) 六地蔵(昔は一部倒れたりしていたのを地元でき

っているようです。場所は常磐線の恋瀬川にかか 上続いている墓もあり、少なくても500年は は地元の方で代々受け継がれているが、30世代以 上記の文献では20名となっていましたが、 人数が刻まれており、19 名とのことです。この墓 ・地蔵に

あたりです。 その橋をまっすぐ中津川方向に向かった突き当り 昔はここに橋(1本橋)がかかっていたとのこと。 る橋の1本石岡よりの新しい橋のすぐ石岡側です。

12、幻に終わった加波山鉄道

高浜駅にやってきて、急に昔の加波山鉄道がで、資金繰りで頓挫してとうとうこの鉄道は幻になるはずだった跡を見てみたくなった。この鉄道きるはずだった跡を見てみたくなった。この鉄道が、資金繰りで頓挫してとうとうこの鉄道が、資金繰りで頓挫してとうとうこの鉄道がで、資金繰りで頓挫してとうとうこの鉄道がで

取得が行なわれ建設工事も開始された。このため、 で東京に建築用木材がたくさん必要になったため 軌道株式会社」の設立が出願され、 正しいのでしょう。 大正13年に当初 実行に移す時にはなくなってしまったというのが に金融恐慌が起こり、昭和4年に石岡中町を中心 の製糸産業も景気が良かったのですが、昭和2年 で運び、そこから東京まで常磐線、 に、木材を加波山や筑波山の麓から鉄道で高浜ま 計画がスタートしたのは関東大震災(大正 12 道株式会社」「加波山鉄道株式会社」と名称が変更 慌がおこった。この鉄道を支援する財力も計画を とした大火災が発生し、同じ年の 10 月に政界大恐 ぶ計画だったようだ。計画を始めた時はまだ石岡 昭和2年に工事の認可が下りて一 後に「柿岡鉄 または船で運 「恋瀬川沿岸 部用地の 年

> 号国道を横切ります。そこから先は、今の恋瀬川 周りは田んぼや畑ばかりですから低い低地を1 これは、今は廃止になった鹿島鉄道の前身「鹿島 その用地の跡などが探すとまだいくつか痕跡が見 す。この道を真っ直ぐ行くと恋瀬橋のところで6 くその鉄道が通るはずだった場所だと思っていま 本のまっすぐな道が続いています。これがおそら とする計画でした。この駅の構内の裏手に数年前 参宮鉄道」も建設当初は石岡ではなく高浜を基点 なく、ここ高浜から発車させる計画だったのです。 たといいます。そのため、加波山鉄道も石岡では た当時は、蒸気船も発着し、米相場も「高浜相場」 にまっすぐ筑波山の方に向かう道ができました。 などと言われて、ここで相場も決まったりしてい つかります。 高浜も、 霞ヶ浦に船運が発達してい

> > 思います。



根小屋より柿岡方面に伸びた通称汽車は(突き当たりは柿岡街道のコンビニ)

みました。 加波山鉄道の跡を高浜から柿岡までを追いかけて

根小屋のところをやはりまっすぐ走る道路が作ら川を亘って志筑地区を通ってまた川を渡りなおし、

ているところを通る計画だったようです。そして、沿いの土手の上を走るサイクリングロードとなっ

われます。 加波山の眺めが美しい鉄道となっていたことと思また途中の恋瀬川からの筑波山や柿岡地区からの

があったということも覚えていても良いことだと

ない田舎駅と思える高浜の駅にもこのような歴史

らく違ったものになっていたと思われます。

何も

道の道が出来ていたとしたら、った可能性は高いと思います。

今見る景色はおそでもこのような鉄

たとしてもこのご時世ですのでいち早く廃止となまだ数年前のことです。もちろん鉄道が出来ているようです。この道路がきれいに整備されたのもれています。この道は通称「汽車道」と呼ばてい

後の復興を促進することにありました。材を東京へ運搬し、大正 12 年に起きた関東大震災材を東京へ運搬し、大正 12 年に起きた関東大震災鉄道の最大の目的は加波山近郊の石材や建築木

予想されました。 しかし高浜駅周辺は湿地帯で工事もかなり難航が

(設立当初の概要)

発起人:海東惣一郎他 49 人

資金:50万円 1万株1株50円

起点:高濱町北根本字西ノ前 98

石岡町石岡字宮下経由:高濱町中津川

石岡町染谷

志筑村下中志筑

志筑村高倉

小桜村半田、塚原、川又

柿岡町片野、金指

《点:柿岡町柿岡字上宿 2127

延長: 9 哩 56 鎖

動力:蒸気

客車:2軸客車5両 定員40人

. 車: 2 軸有蓋車 2 両 積載量 10 t

2 軸無害車 3 両 積載量 10 t

停車場:高濱・柿岡他 3 ヶ所 2 軸有蓋緩急貨車 3 両 積載量

8t

(左に曲がると佐久良東雄宅である。方面に進むと右側にコンビニがある信号に出る10円ショップの場所あたり)から柿岡街道を石岡終点の柿岡駅予定地(如来寺前の通りの現在の

加波山鉄道は完成を見ずに幻に終わった。に回り込んでその先の恋瀬川の土手堤の道へ続く。恋瀬川サイクリングロードは一部山を登るようこの道も鉄道の建設跡を利用したものです。

れていたであろ。

サイエンス・ニュース 菅原茂美

分が乗ってこない。 ニュース。そのため、心が乱れ、長文を纏める気原稿の構想を練っていたら、北朝鮮の暴挙連発の原稿の構想を練っていたら、北朝鮮の暴挙連発の

① 狐の家畜化実験

ヌ科の野生の狐を順化飼育し実験を行った。多数については、永遠の謎。それを解明すべく同じイにして人間に対し従順な動物へと化けたかの細部所のトルート博士らは、犬が野生の狼から、いかエンス17年8月号によれば、ロシアの遺伝学研究出の中には暇な科学者もいるもんだ。日経サイ

くりの変わり身に驚いたという。とりの変わり身に驚いたという。あまりにも、犬そっまで、しかも甘える。しかし見知らぬ人には警戒めた尾を振り、クンクン泣いて、人間にとても忠めすから穏健な性格の個体を選択育種したところ、の中から穏健な性格の個体を選択育種したところ、の中から穏健な性格の個体を選択育種したところ、

② 血液1滴でがん13種早期発見

柔部腫瘍の13種類。 近年日本では、がん死亡者が多すぎるが、もし 上野発見・早期治療ができれば、死亡率を大幅に 早期発見・早期治療ができれば、死亡率を大幅に 早期発見・早期治療ができれば、死亡率を大幅に 早期発見・早期治療ができれば、死亡率を大幅に 早期発見・早期治療ができれば、死亡率を大幅に 早期発見・早期治療ができれば、死亡率を大幅に 早期発見・早期治療ができれば、死亡率を大幅に 単端・肺・胃・膀胱・前立腺・脳腫瘍(神経膠腫)・骨 が巣・肺・胃・膀胱・前立腺・脳腫瘍(神経膠腫)・骨 が巣・肺・胃・膀胱・前立腺・脳腫瘍(神経膠腫)・骨 の13種類。

(*)検査キット:マイクロRNA検出法

い。しかしマイクロRNAは、正常細胞が、がんあり、ある程度がんが進行しなければ発見できなーカー」は、死んだがん細胞が分解されたものできれば、早期にがん種が分かる。普通「腫瘍マできれば、早期にがの働きを調節する微小粒子がそれ細胞で遺伝子の働きを調節する微小粒子がそれ

ができる。化すればすぐ分泌されるものなので、超早期発見

2008年、国内特定病院でがんと診断された2008年、国内特定病院でがんと診断された目がんは1期58・5%、4期2・5%。肺がん肝臓がん1期58・5%、4期2・5%。肺がん肝臓がんは1期なら41・5%、4期2・5%。肺がん肝臓がんは期なら41・5%、4期2・5%。肺がんは1,2,3期とも、100%、4期59・2%。は1,2,3期とも、100%、4期59・2%。局が重要かが分かる。検査費用は2万円ほどの見が重要かが分かる。検査費用は2万円ほどの見が重要かが分かる。検査費用は2万円ほどの見が重要かが分かる。検査費用は2万円ほどの見が重要かが分かる。検査費用は2万円ほどの見が重要かが分かる。検査費用は2万円ほどの見りでがんと診断された2008年に関する。

③ トリカブトの怪

ぶし大) 切り捨てれば肉が食べられる事を知ってい ③ドクゼリと言われるが、最強のトリカブトは、 日本の3大有毒植物は①トリカブト②ドクウツギ 東北先住民が使うトリカブト矢の所為ともいわれ の蝦夷征伐がなかなかうまくいかなかったのは、 マやエゾシカを狩り、矢の刺さった部位を(握り) の毒は、アイヌが常用。鏃(やじり)に塗布し、ヒグ ぶが、根拠はトリカブトの中毒で神経に障害が起 用いられる。薬物として利用する時は乾燥塊根を ものは、漢方薬(鎮痛・強心剤)や毒物(神経毒)として に似ているから。トリカブトの塊根を乾燥させた クなど。名前の起源は、花が古来の衣装「鳥兜」 日本で30種類もあり、多年草で花は紫・白・ピン た。後の東北の「マタギ」も同じ。更に大和朝廷 す」と呼ぶようになったという。なおトリカブト き、顔の表情がゆがんだ人を指すので、転じて「ぶ る時は(メシサ)と呼ぶ。俗に不美人を「ブス」と呼 「附子(ぶし)」と呼び、同じものを毒物として用い

じ「アルカロイド系」。た。今、話題のヒアリの毒素も、トリカブトと同

④ 古代食の性差別(中国)

混沌極まりなく、困惑が増すばかり。
方理解できた。しかし、心理学や文学においては、的な差異については、自然科学の進歩により、大長年、その解釈に苦悶を繰り返してきた。生物学長男」と「女」の《根本的違い》について、私は「男」と「女」の《根本的違い》について、私は

元々生物は、40億年前の生命誕生以来、単細胞時代が30億年も続き、多細胞時代に突入しても、時代が30億年も続き、多細胞時代に突入しても、時代が30億年も続き、多細胞時代に突入しても、のはなかった。しかしクローン生殖で、「雄」というもないので、全滅する可能性が大である。そこで自ないので、全滅する可能性が大である。そこで自然発生的に、「オス」なるものが誕生し、生殖の時、性がそ時ち寄り、シャッフルし、新しい命を誕生させる。するといろいろのバリエーションが生まさせる。するといろいろのバリエーションが生まさせる。するといろいろのバリエーションが生まさせる。するといろいろのが関係とも、ある者はある病原体に弱くとも、ある者は非常な強さを発揮する。即ち、子孫のだれかな生き残ればよいとするシステムが完成して「種」が保持される。

の発生には同じフナ科のゲンゴロウブナなどの精霞ケ浦のギンブナ (マブナ) にはオスはいないが、卵には変し、戦争がなくなるからそれもよいか?…と思ったりもするが、男がいなくなれば、戦争がなくなるからそれもよいか?…と思ったりもするが、男がいなくなれば、ドラマと思ったりもするが、男がいなくなれば、ドラマと思ったりもするが、男がいなくなれば、ドラマと思ったりもするが、男がいなくなれば、ドラマと思ったりもするが、男がいなくなれば、ドラマと思ったりもするが、男がいなくなれば、ドラマと思ったりもするが、男がいなくなれば、ドラマと思ったりもない。この発生には同じフナ科のゲンゴロウブナなどの精度ケ浦のギンブナ (マブナ にはする) は、単の発生には同じフナ科のゲンゴロウブナなどの精度がある。この発生には同じフナ科のゲンゴロウブナなどの精度がある。

にその発言を禁じているほどだ。 と決めつけ、研究者 が組測など科学予算を大幅に削減した。地球温暖 生したトランプ政権は、環境保護、医学研究、地 生したトランプ政権は、環境保護、医学研究、地 生したトランプ政権は、環境保護、医学研究、地 性したトランプ政権は、環境保護、医学研究、地 性については、デッチアゲ。と決めつけ、研究者 にその発言を禁じているほどだ。

と持たざる者との間に争いがおこり、兵器も、金 業が始まると、穀物の蓄えなどができ、持てる者 の窒素や炭素の性質でわかる)。狩猟採集時代は、食べ物 り、女性は稗や粟の穀物が多く、肉類が少ない(骨 検査の結果、男の食べ物には穀物と肉類が多くな と、男は殆ど戦争に明け暮れ、男女175遺体の はなく、男女で食べ物になんら「差」は見られな 的に男性が優位だが、石器時代以前はあまり戦争 類の生活を見れば、至る所で戦争が起こり、圧倒 れは化石人骨などから、当時の人類が何を食べて は粗末に扱われているという。 たという。しかも墓の副葬品も男は豪華で、女性 文化が定着していったものとみられるようになっ 属製になり、食べ物も男女で差がつき、女性服従 は平等に分け合って食べていたと思われるが、農 い。青銅器の時代 (中国ではBC1700年以降) になる いたかが分かるようになってきた。有史以降の人 その中国で、最近科学的な発見がなされた。そ

や副葬品に差がない事は救われる。 現代は戦争こそなくならないが、男女で食べ物

⑤ 悪夢の復活 (既報と一部重複)

ないが、地球温暖化を放置すると、近未来、かな大げさな予言などをして、得意になるつもりは

りの確率で強力な伝染病が発生しうる。そのシナリカは、1918年に世界大流行したスペイン風光が高まるからだ。1997年アラスカの永久凍生が温暖化により融解すると、スペイン風邪で埋土が温暖化により融解すると、スペイン風邪で埋土が温暖化により融解すると、スペイン風邪で埋土が温暖化により融解すると、スペイン風邪で埋土が温暖化により融解すると、スペイン風邪で埋土が温暖化により融解すると、スペイン風邪で埋土が温暖化により融解すると、スペイン風邪で埋土が温暖化により融解すると、スペイン風邪で埋土が温暖化によりである。そのシナロの確率で強力な伝染病が発生しうる。そのシナリカの確率で強力な伝染病が発生しうる。そのシナリカによりでは、1918年に世界大流行したスペイン風

1918年のスペイン風邪は、当時世界人口20 6人中5億人が感染し1億人が死亡したといわれ 6人中5億人が感染し1億人が死亡したといわれ る。今日なら5億人が死亡する可能性があるとの (流行の強度)は、最悪のカテゴリー5に分類される。 ところが昨冬、日本列島は野鳥等から多数、鳥 ところが昨冬、日本列島は野鳥等から多数、鳥 ところが昨冬、日本列島は野鳥等から多数、鳥 ところが昨冬、日本列島は野鳥等から多数、鳥 た(22都道府県218件)。本県でも、水戸市の千波湖 た(22都道府県218件)。本県でも、水戸市の千波湖 た(24都道府県218件)。本県でも、水戸市の千波湖 た(24が展界の現場をなどに、千波湖周辺への立 の為、偕楽園の観梅客などに、千波湖周辺への立 ち入りは禁止された。

ルエンザが感染し、更に悪性の強度を増して人類い荒らしたりすれば、その残骸を猛禽類や渡り鳥い荒らしたりすれば、その残骸を猛禽類や渡り鳥い荒らしたりすれば、その残骸を猛禽類や渡り鳥い荒らしたりすれば、その残骸を猛禽類や渡り鳥いがのとが更に食い荒らす。一般に鳥インフルエンザなどが更に食い荒らす。一般に鳥インフルエンザは、野鳥では即死の経過をたどるとは限らない。しかし哺乳類に感染すると、哺乳類のインフルエンザウイルスとミックスして遺伝子変異を起こし、中緯度地帯に戻ってくれば、鳥から豚にインフルエンザが軽過をとる事がある。それら渡り鳥が客類地エンザが感染し、更に悪性の強度を増して人類地でいた。

民族芸能の話 (5)

木下明男

舌 1です。 9回の民族芸能の話も、タカクラ・テル先生から教えて頂いたお今回の民族芸能の話≫について紹介いたします。日本音楽の話もんだ≪民族芸能の話≫について紹介いたします。日本音楽の話も9回続いた≪日本音楽の話≫は終了し、今度は、労音の中で学

それから間もなく、組合弱体化政策の一環として、新賃金制度(会社職制の強化)導入が計られ、組合の分裂策動が行われました。会社側の組合分裂策動により、人間関係や様々な愛憎を経験た。会社側の組合分裂策動により、人間関係や様々な愛憎を経験た。北海道函館労音との交流会に参加したのもこの頃で、生涯をかけて音楽運動に参加するきっかけにもなりました。そして、何のために音楽運動を進めるのかの勉強が始まります!そんな時にのために音楽運動を進めるのかの勉強が始まります!そんな時に

(5) 明治維新以後の日本文化の新しい条件

導の中心に置いていた。天皇制政府は、早速この古代中国の政治・文化に対する盲目的な崇拝を指日本封建制は外国崇拝の長い伝統を持っていて、があった。そこから、極端な外国崇拝が生まれた。大急ぎで先進資本主義国の科学や技術を学ぶ必要ーロッパやアメリカの資本主義に追いつくには、日本資本主義は非常に遅れて出発したので、ヨ

古代中国への崇拝を近代ヨーロッパへの崇拝へ切古代中国への崇拝を近代ヨーロッパへの崇拝へ切古代中国への崇拝を近代ヨーロッパへの崇拝へ切古代中国への崇拝を近代ヨーロッパへの崇拝へ切古代中国への崇拝を近代ヨーロッパへの崇拝へ切古代、指導の中心にした。

師となり事務員となって、日本の社会を指導しま るより外国の事を研究する方が高尚だという考え びつくのは、 国崇拝が日本民族や日本の文化に対する軽蔑と結 史に科学的な光を当てる事を完全に防ぎ止めてい とすれば、国賊として投獄された。日本人民の歴 れを否定して、日本民族の真の歴史を研究しよう 日本の歴史として、無理に国民に押し付けた。そ 軽蔑し、日本文化を軽蔑した。皇室の権威を保つ 化を極端に軽蔑した、ここでは二つの実例をあげ く妨げられたのは当然です。天皇制政府は日本文 主義の蔓延る基礎を創りました。こういう条件の した。そうして、外国崇拝の気風を漲らせ、 いた。そういう空気の中で育てられた学生が、教 ん。国粋主義とはこういう本質的なものです。外 た。日本歴史に対するこれ以上の軽蔑はありませ ために作った、神武以下の天皇の伝説的な事蹟を、 天皇制政府は、日本民族を軽蔑し、 長いこと日本の全ての大学の伝統になって 日本文化の民族的要素の正しい発展が大き 極めて当然です。日本の事を研究す 日本歴史を 国粋

> う事です。こういう事例は各地にある、民謡を基 それをどうして木曽谷の人間が歌えなかったかと 長野県の木曽谷生まれで「木曽節」の歌えない人 正しい発展が行われる筈がない。 の民謡を天皇制は軽蔑し、弾圧した。民族文化の 遂げたという例は何処にもない。その大事な日本 礎にしないで、その国の民族音楽が大きな発展を れたのが癖になって、とうとう歌えなかったとい な歌を歌っては如何、歌は軍歌を歌え」と教育さ いうと、子供の頃小学校で「木曽節のような下等 ていて、歌も節も最も優れた日本民謡の一つです。 た民謡が「木曽節」で、極めて切実な感情が籠っ の中で、土地を失って村から追い出された農民が を相当知っている。封建制の末の資本の原始蓄積 の国の音楽を取り扱わないという例は世界にない。 育をすることに決まった。国立の音楽学校で自分 **う事になって、ドイツの古典音楽を中心に音楽教** 楽を教えるべきかどうかが問題になる。結局、 東京につくる。その時、この学校で日本固有の音 木曽川の筏乗りになっているのを中心テーマにし 本の音楽は学校で教える価値を持っていないとい 明治の初年に、天皇制政府は国立の音楽学校を 日

た国粋主義の弾圧が続いたので、民族文化の発展と同時に、軍国主義は益々凶暴になり、狂いじみい、文化的にも、維新以後で一番明るかった時代も、文化的にも、維新以後で一番明るかった時代も、文化的にも、維新以後で一番明るかった時代も、文化的にも、維新以後で一番明るかった時代を、文化的にも、維新以後で一番明るかった時代を、文化的にも、維新以後で一番明るかった時代を、文化的にも、維新以後で一番明るかった時代を、文化的にも、維新以後で一番明るかった時代を基礎とした多くの優れた作品が生まれている。日本資本主義が一定の段階に達し民主主義(デェクラシー)の発達が一定の段階に達し民主主義(デェクラシー)の発達が一定の段階に達し民主主義(デェクラシー)の発達が一定の段階に達し民主主義の発展と同時に、軍国主義が発展と同時に、軍国主義が発展と同時に、軍国主義が発展といる。

はまたもや大きく妨げられた。

運動は「歌舞伎」 とを彼らは知りませんでした。だから、「活歴」の するには天皇制と戦わなければならないというこ 尊重する劇と言う意味でしたが、真に史実を尊重 他の作品がそれを示している。「活歴」とは史実を 弥よりもっと封建的で、もっと反動的だった。部 思想的には、封建制から一歩も踏み出していない。 制に指導されなければならなかったために、「歌舞 非常に多くの封建的要素が残って、封建的な天皇 む事になった。ところが、その資本主義社会にも 封建制そのものが崩れて、次の資本主義社会へ進 弱く、「歌舞伎」が封建的要素を非常に多く残して、 資本家階級の成長が不十分で、その指導が極めて ある。「歌舞伎」は人形浄瑠璃とと同じく、封建制 きく受けて発展を損なわれたものに「歌舞伎」が って後退させた。 ひたすら封建的な忠義を称えた「大森彦七」その 落民に対して露骨な軽蔑を示した「春雨がさ」や、 した福地桜痴です。しかし、桜痴の思想は、黙阿 指導者が現れた。団十郎と共に「活歴」を生み出 民族演芸としてまだ未完成の状態にあるうちに、 族的演芸の一つとして生まれたものです。しかし、 の中で新興の資本家階級(町人)の指導の下に、民 江戸時代の末から明治の初めに活躍した、「白浪五 伎」はここでも民族演芸として完成できなかった。 **人男」や「三人吉三」などの作者、河竹黙阿弥は** 天皇制が確立すると同時に、「歌舞伎」に新しい 演芸の面で、こういう封建的要素の害を最も大 を民族的に前進させないで、反

の他の作品では、封建的な天皇制の指導から全く一生の仕事にした人ですが、しかし「桐一葉」そパの劇を輸入して日本の演劇を前進させることを坪内逍遥は、シェイクスピアその他のヨーロッ

踏み出すことが出かなかった。「桐一葉」では、大踏み出すことが出かなかった。「桐一葉」では、大 を では近代現実主義を取り入れようと努力したけれ とも、思想の上で天皇制の指導から抜け出すことがで せて民族演劇として完成する方向へ導くことがで きなかった。

が出来ず、大衆から孤立して、都市の一部の人間 発展を遂げる事を大きく妨げた。 ものが没落の道を歩いていて、これを指導する力 事実が大きく暴露されたときは、資本家階級その がら、これを完成することができなかった。その の弄び者のようになってしまった。資本家階級は ないし、国民もみなそれを望んでいる。その中で、 建的要素が次第に崩れていくのは避ける事は出来 族が近代民族として正しく発展することを大きく たが、封建的要素を大きく残したために、日本民 を失っていた。明治維新は非常に大きな変革だっ へ発展させるよう、真剣な努力をしなかったので、 民族芸術として未完成な「歌舞伎」を完成の方向 続け、技術的方法だけで問題を解決しようとして、 「歌舞伎」の持つ、大切な民族的要素を生かす事 「歌舞伎」という優れた民族的演芸を作り出しな 「歌舞伎」は何時までも封建的な内容をそのまま しかし、日本が資本主義社会であるかぎり、封 従って日本文化が民族文化として本質的な

常陸國總社宮例大祭・二〇一七 兼平智惠子

↑もう~いーくつねるとお正月~♪と新しい年かました。

んで頂きました。みを頂きましたが約四三万八千人の皆さんに楽しみを頂きましたが約四三万八千人の皆さんに楽し七日に、祈願の五穀豊穣にとって大切な雨のお恵心配された大型台風一八号接近では二日目の一

頭で出発です。
一日目、神幸祭は朝から曇り空。常陸國總社宮町で出発です。
一日目、神幸祭は朝から曇り空。常陸國總社宮町が大神輿の出御を宣言し、花火を合図にささらたが大神輿へと遷される「御霊遷」終了後、ささらた二00人の「神輿衆」(大神輿を担く為に年番町がけた二00人の「神輿衆」(大神輿を担く為に年番町がけた二00人の「神輿衆」(大神輿を担く為に年番町がけた二00人の「神輿衆」(大神輿を担く為に年番町が大神輿の出御を宣言し、花火を合図にささら先が大神輿の出御を宣言し、花火を合図にささら先が大神輿の出御を宣言し、花火を合図にささら先ばいて午後一時より神さまの御分霊が選挙している。

り歩き、御仮殿へ向かいます。やかな供奉行列、勇壮な幌獅子の行列は町内を練いた各町内三○台余りの幌獅子が続きます。華いがは隣接する石岡小学校校庭に勢揃いして

たため、ひとり祭りに浸りました
お囃子や踊り大好きの身、孫達の帰りがなかっ、解子や踊り、獅子舞いなど神様をたのしませます。を、順次参拝します。その後、それぞれ独自のおされ獅子や山車は、無事御分霊が鎮座した御仮殿ます。大神輿が御仮殿へ到着すると鎮座祭が斎行ます。大神輿が御仮殿へ到着すると鎮座祭が斎行

浦安の舞いが奉納されました。さんによる「染谷十二座神楽」や巫女さんによる神神輿」の出御。境内の神楽殿では染谷地区の皆社宮では奉納相撲や大神輿より一回り小さな「明二日目 奉祝祭 朝から恵みの雨。予定通り總

という事が特徴になっています。うです。石岡のおまつりは雨が降っても行われるさんもビニールや合羽に包まれて大熱演だったよ山車の大行列が行われ、獅子も山車も綱を曳く皆山中ではメインの御幸通りで、幌獅子の大行列、

る「還幸祭」がおこなわれます。 いよいよ最終日、御仮殿から大神輿が本殿へと戻三日目 還幸祭 秋晴れ。(終わり良ければ総て良し)

また心が騒ぎ出掛けてしまいました。もご紹介しながら、御仮殿での戻るための神事、見て頂きましたが肝心の華を殿へ還御時の神事、見て頂きましたが肝心の華をと、環御時の神事、見て頂きましたが肝心の華をといるが、海仮殿での戻るための神事、

表のたこ焼き冷めないうちに帰りましょ…。 大口あいて獅子、泣き叫ぶが子の頭咥えて…… と見る人に吉兆をもたらす夢の風景と言う、この壁見る人に吉兆をもたらす夢の風景と言う、この壁見る人に吉兆をもたらす夢の風景と言う、この壁見る人に吉兆をもたらす夢の風景と言う、この壁見る人に吉兆をもたらす夢の風景と言う、この壁見る人に吉兆をもたらす夢の風景と言う、この壁見る人に吉兆をもたらす夢の風景と言う、この壁見る人に吉兆をもたらす夢の風景と言う、この壁見る人に吉兆をもたらす夢の風景と言う、この壁見る人に古兆をもたらすがある。

- 掃いても掃いても落ち葉のかけっこ
- 華やかに賑やかに彼孝を古城の跡に 智惠子

沢山の人々の足跡を辿って歩こう(伊東弓子交通の要所だった浜を、

で今回の準備に精が出た。 る不安はなかった。逆に早く歩いてみたい気持ち 前回、北の津頭宅を尋ねたことで、「浜」を訪れ

道の開くという勇気が湧いた。 埜先生からの資料提供など足を踏み出せば必ず、 玉造出身の若い作家の講演があるという情報。高 漁に纏わる話なら幾らでもしてやるよ」との応援。 小川の店でお会いした元気な先輩は、「これから

声を私に伝えてくれた。

「区長さん、東」福寺の奥さんの好意を土台にして、現るい、東」福寺の奥さんの好意を上されて、現るい表情と大きな笑いのお喋りの仲間にも入れて貰ってこの地で生きてのお喋りの仲間にも入れて貰ってこの地で生きている。境内に集う八十代のお婆さん達

当日を迎えた。が歴史を語り繋いでいることを強く感じながらの佛のこと、寺のこと確り話してくれた。一人一人中の前に住むという男の人も加わって玉造の石

心配していた参加者は前回と同様「よかった」
 立転していた参加者は前回と同様「よかった」

く乾ききって一つしかない。だ。大火の時、仁王さまをお助けした池は水もなだ。大火の時、仁王さまをお助けした池は水もなしい姿、人間の塵、埃を身に纏っておいでのよう(七王門の中で立っておいでの仁王さまの古めか

今の素鳶神社だそうだ。
一つでという。明治になって移動したそうだ。東福がある。縁日には店が出て人が集まってきて賑わがある。縁日には店が出て人が集まってきて賑わがある。縁日には弘法大師のお姿をした石佛が沢山

に心引かれた。住職さんの用意しておいて下さっ悪って見上げていると、涙が頬を伝ってきた。の在り方を素直に考えてみる機会にしてほしいとだ。時代が違うといわれればそれまでだが、親子薬師堂の斜め右にある「孝子弥作」の像は有名

家族が迎える情景など目に浮かべていた。参道は、北の津頭宅の河岸へ続いていた。奥さんの病も治っていて、河岸一帯が望めるところまはれて行った。帰りには珍しい品々を積んできたばれて行った。帰りには珍しい品々を積んできたことだろう。何代か前の津頭が拵えた堤防の跡をことだろう。何代か前の津頭が拵えた堤防の跡をことだろう。何代か前の津頭を明れ場河岸をはじめ沢側き、儲かった喜びの声、損をして落ち込んだ姿、大資料を頂き参道を津頭宅へ向かう。

村崎と行き来のあった「渡し場」のある所で一 柏崎と行き来のあった「渡し場」のある所で一 柏崎と行き来のあった「渡し場」のある所で一 た。

奥に筑波山を背に八木、玉里の奥に御留川が見え場川(御川前)と思われる。目の前は御川筋、右浜の突端、ここが漁の場所、御留川の一つ⑬札

誰...。用されていたのか、今の地形から推し量ることは場、漁場と続いたのか? どんな地形で、どう利る。歩いて何十分もかからない場所に河岸、渡し

でいた。とても良い心地と歩みを進められた。 陽射しが強いと思ったが、川風が撥ね除けてくれや人を育てたに違いないと話しながら歩き続けた。 たにしても、その時々努力を重ねた時間は良い物がら、この地区は外されたことで善し悪しはあっがら、この地区は外されたことで善し悪しはあっ変わっていったろう。陸路交通の便も計画されな変わっていったろう。陸路交通の便も計画されな

こ。
「安食の柊塚よ」と対岸に目を向けてもらった。
「安食の柊塚から下玉里大井戸の稲荷の森を目通し安食の柊塚から下玉里大井戸の稲荷の森を目通し安食の柊塚から下玉里大井戸の稲荷の森を目通し安食の柊塚から下玉里大井戸の稲荷の森を目通した。

であってと願う。してほしい。御留川時代の水のようにきれいな水してほしい。御留川時代の水のようにきれいな水いる。これ以上樹を切ることなく下草の手入れを周囲は若葉が出揃って生き生きした森が続いて

ていたが今、目前が細い体をうねらせている。田園が続く、早苗が細い体をうねらせている。 出園が続く、早苗が細い体をうねらせている。 出園が続く、早苗が細い体をうねらせている。 田園が続く、早苗が細い体をうねらせている。 田園が続く、早苗が細い体をうねらせている。

来た。先を目指す人達に田の外れ、八木蒔に近い善其処から別れて田の道へ降りた一グループが出

③「おかま川」という漁場だ。今度行くことにし あるようです。浜村にある、もう一つの御留川、 かま」というそうだ。ほらあの家です。水神様も て喜びたい気持ちだった。 て、今日わかった事は本当によかった。小躍りし とよぶ地名があって、そこにある家の屋号が「お 所を指して地元の、人が説明してくれた。「おかま、

駅の方へ走っているが、その先も篠の道が出来て リンカーの走る音の響きが忘れられないと、懐か 鹿島参宮鉄道の線路跡沿い迄行く。篠が生い茂つ いた。やがて忘れてしまわれるのだろうか。 しむ声が話題になった。35号の下を真直ぐに玉造 ブがある辺りで、前の人達と合った。互いにガソ て線路跡を隠してしまっている。90度に近いカー 舟溜まりのあったという所を下って畔道を行く。

限りだ。

ている。あの辺りも山と畑があって耕作されてい たが、東日本大震災の時に倒れ、そのままになっ 店の経営も地元の人で、その母親が観音様を建て で35沿いのドライブインに行く道があるという。 掃除されていて気持ちが良い。神社の裏は山続き 木の根が階段のように歩きやすい道を作っている。 たが35号が出来るために随分広く平らになった 素鳶神社へ西側の道を上ってみることにした。

いる。世の移り変わりを見てきたことだろう。 用で通学している状況だ。古い碑が無言で建って **うだ。今は玉造小学校に統合されスクールバス利** 用していない様子だ。以前は旧浜小学校の跡だそ 石段を下りた所には、公民館がある。 あまり使

だったそうだ。初代社長の思いは暖かいうどんを めているとのこと。この会社の大元はうどん作り があった。今は納豆を作り、おかめ納豆として納 神社の鳥居を出ると左右に井川食品の納豆工場

> うだ。今でも町の方に2、3ヶ所うどんの店があ るので寄ってほしいと宣伝していた。 地元の人に食べてもらいたい思いから始まったそ

ず思うが、それはその地を歩いてその地の人に会 を大切に思ってくださった人がいたことも嬉しい ましたと、田伏の人から電話があった。この催し うことが出来たこと、その喜びだった。 で解散した。終わってから「ああよかった」と必 当日都合が悪いので一昨日夫婦で一回りしてき 大変な疲れもなく気持ちよく過ごせたと、境内

髪引かれる思いで別れた。お姉ちゃんの小さな手 りに来た。「元気に百日を迎えることが出来ました」 親と、祖母らしい人と三つ位のお姉ちゃんがお詣 が「バイバイ」をしてくれたのも久しぶりの喜び たちも幸せの御裾分けを頂いた思いだった。後ろ と、幸せがいっぱいの家族の姿を見ながら、自分 いよいよ帰ろうとした時、赤ちゃんを抱いた母

幅の所為もあって大半が居眠りだった。年齢の所 覚の差と器具を利用した話に疲れも出たのか、満 地元出身の若い作家の講演に出席したが、現代感 為もあるかな。 地元で頑張っているレストランで昼食を済ませ

て帰ってきただけ、 帰り際に「浜駅」 淋しい心が一杯。 の跡へ行ってみた。 ただ通っ

国指定史跡・小田城跡 小林幸枝

行ってきました。 つくば市にある国指定史跡「小田城跡」を見に

> 七日に国の史跡指定を受けました。 に勢力を持った小田氏の居城跡で、 鎌倉から戦国時代に、常陸国南部 昭和十年六月

宮宗綱の子の八田知家が筑波郡に領地を与えられ て、小田に居館を構えて小田城の始まりになりま 源頼朝に従い、鎌倉幕府に軍功を上げた、宇都

がかさむということで小田城跡を貫くように敷設 切る形で筑波鉄道が敷かれていたのでした。案内 田時知からは、小田姓を名乗っています。しかし、 知重まで八田姓を名乗ったようですが、四代の小 したのだということでした。 所の人に話を聞いたら、建設当時迂回すると費用 1325年頃には守護職を完全に失ったようです。 始めて行きましたが、立派な城跡でした。 しかし、写真を見てビックリ。小田城跡を突っ 1192年に小田城を築城し、知家の子、八田

跡歴史ひろば案内所となっています。 となりました。現在は、駅舎もなくなり、 昭和62年4月1日、筑波線廃止になり、廃駅 小田城

【風の談話室】

(特別寄稿) 命の河を遡り

田島早苗

(8) それぞれの岐路

所懸命立ち直ろうとしていた。 自分の抱える心の闇に気付かぬまま、 健作は

利かなくなる悪癖は変らなかった。 然し大好きな酒が一定量を超えると、 歯止めが

ず暗い緊張を強いられていた。ない時限爆弾を抱えているようで、家中は相変らたが、その落差が激しく、いつ爆発するかもしれ家族を思いやる優しさをのぞかせる事もあっ

早紀に縁談が持ち込まれた時、「これで地獄か早紀に縁談が持ち込まれた時、「これで地獄かりが進み、好奇心抑えがたく、お見合いの段取りが進み、好奇心抑えがたく、お見合いのだろうか。そんな早紀の思いにお構いなく、見合いの段取りが進み、好奇心抑えがたく、お見合いの院に臨めだ早紀だったが……青年は四人の姉の下にようやく生まれた男の子として大事にされた、お坊ちゃん育ちだった。ご両親は既になく、お見合いは複雑ら抜け出せる」と思いながらも、早紀の心は複雑ら抜け出せる」と思いながらも、早紀の心は複雑ら抜け出せる」と思いながらも、早紀の心は複雑ら抜け出せる」と思いながらも、早紀の心は複雑ら抜け出せる」と思いながらも、早紀の心は複雑になった。

少女だった。 ……と夢見ている頭でっかちで世間知らずの文学相手は、大きな包容力で優しく包んでくれる人を相手は、大きな包容が下手な早紀は、せめて結婚する

れていた。が、お姉さんだけは欲しいと身勝手な考えに捉わが、お姉さんだけは欲しいと身勝手な考えに捉わに、儚く夢が潰えたことを感じていた早紀だった真面目だけが取り柄で気の弱そうな青年を前

> ざった。 事を起こしている早紀と健作を引き離したい加代 長田家から逃げ出したい早紀以上に、始終もめ

有難迷惑だった。 毎回兄をたしなめ、その度に叩かれている早紀が毎回兄をたしなめ、その度に叩かれている加代には、

う母。何時も早紀は独り相撲だった。 黙って嵐の過ぎるのを待っていて欲しいと願

に応援しているようだった。き活き走り回り始めた。健作も文句は言わず密か一杯嫁入り支度を整える為、呉服屋、家具屋を活一杯嫁が調うと、加代は乏しい家計費の中から精

人に手紙を書いていた。なった先の事が心配でならず、嫁ぐ前夜、一人一相変わらず独りよがりの早紀は、自分が居なく

にくれるばかりで、夜が更けて行った。 は感謝の言葉を長々と書き記し、兄健作には、小は感謝の言葉を長々と書き記し、兄健作には、小は感謝の言葉を長々と書き記し、兄健作には、小は感謝の言葉を長々と書き記し、兄健作には、小は感謝の言葉を長々と書き記し、兄健作には、小は感謝の言葉を長々と書き記し、兄健作には、小は感謝の言葉を長々と書き記し、兄健作には、小は感謝の言葉を長々と書き記し、兄健作には、小は感謝の言葉を長々と書き記し、兄健作には、小は感謝の言葉を長々と書き記し、兄健作には、小は感謝の言葉を長々と書き記し、兄健作には、小は感謝の言葉を長々と書き記し、兄健作には、小は感謝の言葉を長々と書き記し、兄は作には、小は感謝の言葉を表しています。

普及が加速した。 なご成婚パレ―ドに沸いた日本は一挙にテレビの昭和三十年早紀が結婚した翌年、皇太子の華麗

びて行った。 後まで仕上げて商売をするようになり、順調に伸現実も大きく変り、健作の仕事もビニ―ル傘を最出産、更に和子の結婚と続き、長田家を取り巻くめがて、早紀の長女出産、兄健作の結婚と長男

パートの従業員を雇い入れ、兄嫁の在所北濃か

らずの生活が始まった。三人は、近くの小さな借家を借りて親子三人水入三人は、近くの小さな借家を借りて親子三人水入がら学校へ通うことに成り、健三、加代、明子のら甥っ子が出てきて、住み込みで仕事を手伝いな

き換えて楽しんでいた。明子の話を色々聞きたがり、自分の青春時代と置後も文通を続け、揺れ動く日々だった。加代は、春真っただ中、学生時代のペンフレンドと、卒業・明子は女学校を卒業すると同時に勤め始め、青

行くのが、唯一の楽しみだった。へ通い、休日には自転車で大好きな鰻重を食べにマイペースの健三は毎日黙々と健作の作業場

は無かった。 れを丸々引き受ける様になった兄嫁には脱帽の他健作の酒癖が悪いのは相変わらずだったが、そ

時には顔に付いた痣を、「一寸柱にぶつけてし 時には顔に付いた痣を、「一寸柱にぶつけてし するのだった。 等と言い訳をしながら、長田家の大黒柱 まって」等と言い訳をしながら、長田家の大黒柱 まって」等と言い訳をしながら、長田家の大黒柱 まって」等と言い訳をしながら、長田家の大黒柱

いる幸せに感謝している早紀だった。

思った以上に素晴らしい家庭を築くことが出来てたちを守ってくれればいいから」と頼もしく一人たちを守ってくれればいいから」と頼もしく一人たちを守ってくれればいいから」と頼もしく一人というと共にお勝手の土間迄ぶっ飛んだ時、「子供仕切りと共にお勝手の土間迄ぶっ飛んだ時、「子供仕切りと共にお勝手の土間迄ぶっ飛んだ時、「子供日別の長男が生まれた昭和三十四年、東海地方

を笑わせていた。 後年早紀は宝籤三等賞の亭主だと言っては皆

日本は大きく変貌を遂げた。東海道新幹線が開通昭和三十九年の東京オリンピック開催を境に、

る始末だった。 乗ったら耳が遠くなる等と言う流言に惑わさされして、そのスピードに驚いた人々は、あの列車に

は、早紀の一生の思い出に成った。 園年長さんの長男と、母子マスゲームに出たこと オリンピックの翌年、岐阜国体が開かれ、幼稚

縁を感じていた。
のを思い出した早紀は、未知の茨城に不思議なご踏み切ったとき、子供の頃、予科練に憧れていたドとの愛を成就させ、明子が茨城の青年と結婚に「昭和四十一年、学生時代から育んだペンフレン

城には、妹がいる」と自分を励ましながら。二の足を踏む夫を説き伏せたのは早紀だった。「茨で会社を興し、手伝ってくれないかと言われた時、夫の二番目の姉夫婦が、奇しくも茨城の美浦村

幹線に乗り込んだ。

・世で待っている生活に、期待と不安を抱え、新支障はないですか!」とお伺いを立て、初めてのに「半年に満たない赤ちゃんを新幹線に乗せても乗せても大丈夫だろうか?かかりつけの小児科医乗せても大丈夫だろうか?かかりつけの小児科医

った。 入りも活発で、健作の商才も見事花開いた感があ入りも活発で、健作の商才も増え、商談の人々の出作業場にパートで働く人も増え、商談の人々の出ート二階建ての作業場兼住居が出来上がり、広い長田家では表通りに地所を求め、鉄筋コンクリ

なって行った。校入学したのを機にPTA活動にも力を注ぐ様に校入学したのを機にPTA活動にも力を注ぐ様になくなり、世間の信用も増し、二人の子供が小学した健作は、人前では荒ぶる姿を見せることも少高売が軌道に乗り始めて、徐々に着きを取り戻

俳句の世界に関わり出したのもこの頃だった。父今まで眠っていた文学に対する想いに目覚め、

いた。自分の出生を疑った事などすっぽりと抜け落ちて、自分の出生を疑った事などすっぽりと抜け落ちて、親そっくりの風貌で、俳句を捻っている姿からは、

顔付きも明るくなっていった。癲付きも明るくなっていった。「酒癖の悪い健ちゃん』の汚名も返上、暗かった。多くの人々の協力を得て、ユニ―クな記念誌を多くの人々の協力を得て、ユニ―クな記念誌を多くの人々の協力を得て、ユニ―クな記念誌をお』を纏める大役を仰せつかり、何事にも熱くなみ』を纏める大役を仰せつかり、何事にも熱くなみ』を纏める大役を仰せつかり、何事にも熱くない学校PTA活動の一環として『創立百年の歩

昭和五十二年俳句活動を再開した健作は、縁あ昭和五十二年俳句活動を再開した健作は、縁あていた。やがて同人に推挙されたが、先生とはめていた。やがて同人に推挙されたが、先生とはって沢木欣一主宰の俳誌『風』に入会、地域でもって沢木欣一主宰の俳誌『風』に入会、地域でもって沢木欣一主宰の俳談『風』に入会、地域でもいた。

不備な事ばかりだった。
に出るようになったが、始まったばかりの工場は、表兄の勧めで、乳母車に乗せた赤子を連れて働きにも違い過ぎる地域性に戸惑うことが多かった。茨城県美浦村の住民に成った早紀達は、あまり

と働く姿勢の違いに苛立つことが多かった。
させながら頑張り始めた早紀だったが、若い同僚割り付けを任され、子供たちに辛く寂しい思いをに動き出した印刷業の製販部要員として、校正と工場内で育った次女が小学生になると、本格的

だと言う。

だと言う。

だと言う。

だと言う。

にいことを堪え、ストレスが満杯になって話に時、見も知らぬ人から電話を貰ったのが、早居た時、見も知らぬ人から電話を貰ったのが、早居と明の出会いだった。 はない 大き はいたいことを堪え、ストレスが満杯になって 言いたいことを堪え、ストレスが満杯になって

やがて『風』に入会して投句を始めたが、散文めて見知らぬ句会に一人で出かけて行った。人間関係に行き詰まっていた早紀は、風穴を求

- 仕事と主婦業と、俳句の三本立ては難しく、挫的な早紀は、まるで俳句に向いていない。

なって行った。
して、兄妹の仲には、穏やかな時が流れるように細々ながら続ける事が出来たのだった。俳句を介折しそうになる度に励ましてくれる先輩のお蔭で、折しそうになる度に励ましてくれる先輩のお蔭で、仕事と主婦業と、俳句の三本立ては難しく、挫

く自分の楽しみに目覚めていた。 長田家のご隠居さんに成った老夫婦は、ようや

ばしばだった。と言って、健作の付き添いで出かけて行く事がしと言って、健作の付き添いで出かけて行く事がしかなり体調が悪い時でも、同窓会だけは出席するが代の一番の楽しみは女学校の同窓会だった。

を遂げていた。 たが、両親を労る気持ちが感じられる息子に変貌 無器用で優しい言葉は掛けられない健作だっ

しを張っての道中だった。は、あの苦いアロエをしゃぶり、こめかみに梅干酔いが激しく、早紀達と車で遊びに出かけるとき酔は度々茨城へ遊びに出かけてきたが、乗り物

行く加代だった。 困る場面もあり、来る度に話題を提供して帰っての加代と、互いに相手の言葉が分からず、明子が明子の家へ泊った時には、茨城弁の姑と岐阜弁

(続く)

やさと暮らし《読者投稿》

さと女

アートサイト八郷

年年下青柳の荒れ地を借りて、東京の美大生が 毎年下青柳の荒れ地を借りて、東京の美大生が 毎年下青柳の荒れ地を借りて、東京の美大生が 年年下青柳の荒れ地を借りて、東京の美大生が 年年下青柳の荒れ地を借りて、東京の美大生が

UFO?

腹も至って快調です。 来てから野菜を沢山食べるようになり,お蔭でおリージュースだったり、これだけで満腹。八郷にける。飲み物はゴーヤジュースだったりブルーべにスクランブルエッグとトマトの上にチーズをかにスクランブルエッグとトマトの上にチーズをかにえり物の野菜なんでも蒸してしまう。そこ朝食は専ら蒸し野菜、カボチャにナスとおくら、朝食は専ら蒸し野菜、カボチャにナスとおくら、

食事に満足し外を見ていると、赤い光をピカピを事に満足し外を見て「どこでひとがみているり言えばカーナビを見て「どこでひとがみている外に出るとお隣の息子さんドローンで空中撮影し外に出るとお隣の息子さんでいる物体。何かと思い、カさせながら空中をとんでいると、赤い光をピカピを事に満足し外を見ていると、赤い光をピカピ

35 年来の友人が

で盛り上がり、昔話に花を咲かせた。吉川さんが(マンサニージャ)を飲みながら、スペイン旅行の話くれた。旅行の時に購入したお土産のチェリー酒んが、仕事でこちらに来る序に我が家を訪問してを我が家に招待する約束をしていた。その吉川さん夫がスペインで、フラメンコギターの吉川さん

ざらホールCプロ)のCDを聞きながら、当時を懐かしんホールCプロ)のCDを聞きながら、当時を懐かしん持って来てくれた、M.カーノの東京公演(朝日生命

て帰って行った。までも聴いていたかったが、またの再開を約束しまでも聴いていたかったが、またの再開を約束し素晴らしいギターの音色が部屋中に響いた。何時ルカーノ」が愛用したギターで演奏をしてくれた。あっという間に時は経ち、別れる朝に「マヌエあっという間に時は経ち、別れる朝に「マヌエ

・突然の警報

気分だった。果たして今後の人類は…。のか、何が起こるのか不安にかられ、一日中嫌ならも携帯からも緊急の警報が何度も。何が起った北朝鮮がミサイルを発射したと報道、防災無線か北朝鮮がミサイルを発射したと報道、防災無線かりると突然警報が。テレビは不気味な黒い画面が、早朝、コーヒーを飲みながら、ゆったりとして

・収穫とスポーツの秋

にぎわい、ワクワクする季節である。 でいるらしい。我が家のクリも落ち始めた。お隣 でいるらしい。我が家のクリも落ち始めた。お隣 でいるらしい。我が家のクリも落ち始めた。お隣 である。布団干しや にぎわい、ワクワクする季節である。布団干しや にぎわい、ワクワクする季節である。 がは八郷も大 にぎわい、近所の人が収穫量は例年より

を上げていた。

・猫ちゃん

・石岡のまつり

てくれる。

子や山車を見ながら市内を楽しんだ (ぐるうぶ観覧車をから我が家に泊っている笈川さん (ぐるうぶ観覧車をの、行列に加わるため、袴、羽織の盛装で。昨陸國総社宮を出た大神輿が、各町内を練り歩く。昨陸國総社宮を出た大神輿が、各町内を練り歩く。 ち連日参加する予定。初日は色々な儀式の後、常観光協会長の大役を受けているので、おまつりに 今日から石岡のおまつりが始まる。今年は夫が

・竹ひご作り

昔、植物の生態研究などの仕事をしていたと言う。畑の周りには変わった植物が色々とある。師匠はた。一歩足を踏み入れると、甘い香りがしてきた。は気晴らしに、遊び場、秘密の畑に案内してくればと、特訓を受けるが中々上手くいかない。師匠ばと、特訓を受けるが中々上手くいかない。師匠が細工をするのに、材料の竹ひごが作れなけれ

自生しているのをみたことがある。 し)の棚もあり、ハイキングに行った時何度か山にごろ、甘味が強くてクリーミー。また猿梨(さるな甘い香りの果実はポポ、ちょうど熟していて食べ

でした。
【猿梨の果肉は甘酸味があり、果実酒に良い、蔓ば柔の果肉は甘酸味があり、果実酒に良い、蔓にかずら)橋の材料になる。また、太い蔓を切ると、根のついたほうの切り口から水が出るので飲と、根のついたほうの切り口から水が出るので飲めといわれる。此の実はキウイフルーツの原種のめといわれる。此の実はキウイフルーツの原種のようだ。】人里離れた山の中の畑で師匠は楽しそうな、様梨の果肉は甘酸味があり、果実酒に良い、蔓でした。

・明園寺へ

我が家には深井戸があるが、水の出が悪かった。我が家には深井戸があるが、水の出が悪かった。 株別ってポンプを変えパイプの掃除などしてもらい、水が勢いよく出るようになった。 昨日は暫らい、水が勢いよく出るようになった。 昨日は暫たでオリーブさんでランチを。 講話会場の明園寺でてオリーブさんでランチを。 講話会場の明園寺ででオリーブさんでランチを。 講話会場の明園寺ででは生きていけない、すべての繋がりの中で生人では生きていけない、すべての繋がりの中で生といる。

養生日記

堀江美穂

• 某月某日

料理の好きな人で、よく持ってきてくれる。それ同じアパートに住んでいる七十代の女性がいる。

ょっと困ってしまう時もある。らそんなに食べられない。感謝なのだけれど、ちろいろ持ってきてくださる。でも独り暮らしだかシチュー、赤飯、金平、ピーマンの肉詰めなどいも大量に。丼ぶり二つに山盛りのポテトサラダや

と言う。もうガックリである。
は方なく貸してあげると、またすぐにパチンう。仕方なく貸してあげると、またすぐにパチンう。仕方なく貸してあげると、またすぐにパチンコに出かけてしまっても、ほとんど負けてくる。それで、料理を持ってきてくれる度お金を貸してほしいと料理を持ってきてくれる度お金を貸してほしいとくに、イチンコが大好きで、毎日のように

某月某日

的に話しかけられる数少い人だった。があったと聞き、親近感を覚え、こちらから積極働いていたときに、そのホームに研修に来たことが悪くなって、来なくなった。私が老人ホームでが思くなって、来なくなった。私が老人ホームで

ったので、早く良くなって帰ってきてほしい。私だけでなく、他の人もストレスなく話せる人だことを話せ、ストレスをためることがなかった。大事ないのだろうか。その主任さんだと話したい大事を休む前に、肩や腰が痛いと訴えていたが、

異国の筑波山《風の呟き》

打田昇三

ニジア、アルジェリア、モロッコなどになる。「日の没する地」を意味するとか、国名ではチュ般に「マグレブ」と呼ばれている。アラビア語でアラブ圏の西辺に当るアフリカ大陸西北部は一

の便は南部のオルリー空港から出ていた。 様に大きな空港が二か所在り、アフリカ大陸行きば地中海を越えられなかった。パリには東京と同ローマ・マドリードなどで余計な一泊をしなけれローマ・マドリードなどで余計な一泊をしなけれると

ちない。疲れて夕食後は直ぐに寝た。

「世別で見れば簡単に越えられそうな地中海も旧地図で見れば簡単に越えられそうな地中海も旧地図で見れば簡単に越えられそうな地中海も旧地図で見れば簡単に越えられそうな地中海も旧地図で見れば簡単に越えられそうな地中海も旧地図で見れば簡単に越えられる。其の時

でチュニジアも平穏では無かろうと案じている。近年、情報は無いが中近東は何かと物騒なの



療により、病状軽減・完治にあると思う。 人間ドックの機能は、病気の早期発見・早期治

臓年齢の老化防止を第一と考える。 動脈硬化、血糖値、中性脂肪などに気を付け、内特にBMI(肥満度)や肝機能、コレステロール、慣病予防対策の評価判定措置と位置付けている。

早かったが、とかくこの世はままならぬ。に3種類ものがんにやられた。勿論術後の回復はしかし、私はたばこを1度も吸った事がないの

かかる人もかなりいるという。
さて世の中には、検診の結果『要精密検査』とさて世の中には、検診の結果『要精密検査』と言われ、素直に喜ぶ人もいるが、大丈夫と言わまれ、掛りつけの医師に診てもらい、「大丈夫」

病状の進行も緩やか。いか。精密検査の仕方にもよるし、初期段階ではいか。精密検査の仕方にもよるし、初期段階ではむしろ『大丈夫』と言った方に問題がありはしな診断を行っており、軽々に間違う事はなかろう。しっかりした科学的検査に基き、年間何万人ものしかしよく考えてみると、人間ドックの医師は、

臓がんの初期現象。ステージ1と診断され、摘出内容が液状ではなく固形に変化した。これはすいけたが、現段階で異常とは言えないが、念のため、けたが、現段階で異常とは言えないが、念のため、半年ごとに検査を繰り返す…との診断。それを14年ごとに検査を繰り返す…との診断。それを14年でとに検査を繰り返す…との診断。それを14年でとに検査を受け、エコー検査により膵臓がんの初期現象。ステージ1と診断され、摘出を受け、エコー検査により膵臓がんの初期現象。ステージ1と診断され、摘出

5年後生存率は41・5%、4期発見なら9%で 5年後生存率は41・5%、4期発見なら9%で ある。私の場合、6年半(3回)も異常なしを繰り ある。私の場合、6年半(3回)も異常なしを繰り ある。私の場合、6年半(3回)も異常なしを繰り ある。私の場合、6年半(3回)も異常なしを繰り がが大事」と怒られ、7年間14回目の検査で、 の初期を見抜いた臨床検査技師、診断されたドックの担当医に、今、ただただ感謝するのみである。 すい臓がんは、ステージ1で発見・治療なら、 すい臓がんは非常に発見しにくく、自覚症状が

てやクレームをつけるなど論外。れほどすい臓がんは発見しにくいのである。まし査で「大丈夫」の言葉に安心してはいけない。そ出た時では、すでに手遅れ。1回や数回の精密検」すい臓がんは非常に発見しにくく、自覚症状が

御礼を申し上げる。 御礼を申し上げる。 の先どうなるかわからない。とにかく、筑波大でに手術を成功してくれた外科担当教授に感謝感激7年間も根気よく調べ続けてくれた担当医、それの先どうなるかわからない。とにかく、筑波大でてはいるが、5年後の生存率が4割と来ては、こてはいるが、5年後の生存率が4割と来ては、こ

【特別企画】

打田升三の私本・平家物語

巻第七 - (一 - 2)

火打合戦(ひうちかっせん)のこと

単位では計算出来ないように少ない。
を迎え討つ木曾義仲の兵力は平家軍のように「万」がらのんびりと攻め寄せて来た平家軍であるが、是るが「火打」は地名らしい。竹生島参詣などをしなお伽噺の「カチカチ山」を思い出すタイトルであ

曾軍に味方する僧兵軍団が居た。 今庄に築かれた「火打が城」に迫った。此処にも木は越前国に入り現代の北陸トンネルを抜けた辺りのに比べて数え切れないほどの大軍を擁した平家軍団僧に味方する僧兵などが各地で抵抗していた。それ曾の頃、木曾義仲は未だ信濃国に居て越前国は木

川が流れていた。

『四域には、現在の福井県北東部にある勝山市のこの城には、現在の福井県北東部にある勝山市のこの城には、現在の福井県北東部にある勝山市のこの城には、現在の福井県北東部にある勝山市のこの城には、現在の福井県北東部にある勝山市のこの城には、現在の福井県北東部にある勝山市のこの城には、現在の福井県北東部にある勝山市のこの城には、現在の福井県北東部にある勝山市のこの城には、現在の福井県北東部にある勝山市の

て深く見せたりしてあった。平家軍はとても堀を渡訓練用に造ったという混明池のようであり水を濁しその様子は昔、漢の武帝が敵国を攻めるための水軍湖に浮かんでいるようで攻めるのが容易ではない。け、或いは流れを堰き(せき)止めでいたから、城が城方は二つの川の合流地点に大木を組んで柵を設城方は二つの川の合流地点に大木を組んで柵を設

駄に過ごしていた。 れそうもないので、対岸の山に陣を布いて数日を無

って柵(メールめ)を切れば浅くなる。 ところが、城内に居た僧兵の中で指揮官級の斎明ところが、城内に居た僧兵の中で指揮官級の斎明ところが、城内に居た僧兵の中で指揮官級の斎明

軍は其処から一気に攻め込んだ。
切り落とさせた。その為に湖水は谷川となり、平家方に射込んだ。平家の大将軍は喜んで、足軽に柵を方に射込んだ。平家の大将軍は喜んで、足軽に柵をら援護射撃はする…私は平泉寺の長吏・斎明威儀師ら援護射撃はする…私は平泉寺の長吏・斎明威儀師

城方も暫くは支えていたけれども敵は大勢力であり、とても敵わない。裏切った斎明威儀師は平家方の、とても敵わない。裏切った斎明威儀師は平家方に背き加賀国へ退いて白山北麓の河内に隠れた。平家下が所を焼き払った。こうなると北陸の抵抗勢力も二か所を焼き払った。こうなると北陸の抵抗勢力も平家に刃向かう事が出来なくなってしまった。平家は此の事を都に報告したので大臣以下、都に残留軍は此の事を都に報告したので大臣以下、都に残留軍は此の事を都に報告したので大臣以下、都に残留軍は此の事を都に報告したので大臣以下、都に残留した一門の者は大喜びをした。

国府(現在の上越市南方)に居たが平家軍の移動を聞い(正面と裏面)から攻めることにした。大手の大将軍は一方余の兵力を二分して源氏勢力を大手、搦手電は十万余の兵力を二分して源氏勢力を大手、搦手軍は十万余の兵力を二分して源氏勢力を大手、搦手軍は一方金属で、率いる軍勢は三万余騎、加賀と越中の司盛俊などが付き、兵力は七万余騎、加賀と越中の司盛俊などが付き、兵力は七万余騎、加賀と越中の司盛俊などが付き、兵力は七万余騎、加賀と越中の司盛俊などが付き、兵力は七万余騎、加賀と越中の司盛俊などが付き、兵力は七万余騎、加賀と越中の司盛俊などが付き、兵力は七万余騎、加賀国で勢揃いした平家の大事永二年五月八日、加賀国で勢揃いした平家の大事永二年五月八日、加賀国で勢揃いした平家の大事永二年五月八日、加賀国で勢揃いした平家の大事永二年五月八日、加賀国で勢揃いした平家の大事永二年五月八日、加賀国で勢揃いした平家の大事が平家軍の移動を聞い

行家に一万騎を付け志保山に向かわせた。 た吉例として軍を七手に分け、先ず叔父の十郎蔵人此の時に義仲は横田河原合戦 (巻第六) で勝利をして是を抑えるため五万余騎を率いて馳せ向かった。

次に信濃勢の仁科、高梨、山田など七千余騎は北次に信濃勢の仁科、高梨、山田など七千余騎は北京のである。

木曾願書(きそがんじょ)のこと

あるから丁寧な方が効果はあろう。どちらでも意味は通じるが、神仏にお願いするので書」になっている原本と「願書」だけのものがある。どうでも良いことだが此の章段の表題が「木曾願

其の時に此の義仲が陽動作戦で敵を慌てさせ、日

流れを先に立てて (旗だけを) 黒坂に置いた。迦羅谷へ追い落とそう…」と、先ず源氏の白旗三十が暮れるのを待ってから一気に攻めて平家軍を俱梨

殿も鳥居も見える。 殿も鳥居も見える。 とれた神社を見つけた。朱塗の玉垣や千木造りの社四方を見渡して、夏山の峯の緑の隙間から山中に祀四方を見渡して、夏山の峯の緑の隙間から山中に祀な場所に陣を布いた。一方の源氏軍は最初の陣からで倶梨加羅峠の東側に在る猿の馬場と呼ばれる平坦は山中に在ると思い込み、合戦に有利な場所を選んは山中に在ると思い込み、合戦に有利な場所を選ん

議仲は土地の案内者を呼んで「あの社は何と言う 養仲は土地の案内者を呼んで「あの社は何と言う を答えた。義仲は喜んで大夫坊覚明を呼び「義仲は を答えた。義仲は喜んで大夫坊覚明を呼び「義仲は なった。これはどう考えても勝たなければならな い。その為には後代に記録を残す為にも、戦勝祈願 の為にも願書を此の社に納めて置きたいと思うが、 どうであろうか?」と問えば覚明も「尤もです」と どうであろうか?」と問えば覚明も「尤もです」と

一人の文官と言うべき存在である。然に自分で筆を執った。覚明は木曾義仲の家臣で唯

それでも戦場であるから武装していて濃紺の直垂 それでも戦場であるから武装していて濃紺の直垂 をれても に黒革の鎧を着て黒漆で仕上げた太刀を に納めていた携帯用の硯箱と折り畳んで持っていたものを持ち、兜を背負い、矢を入れる「えびら」の たものを持ち、兜を背負い、矢を入れる「えびら」の た紙を取り出した。

はあるが、格式のある文章が書ける武士は余り居な両道の達者に見えたのである。武士が目立つ時勢でを書き上げたのであるが、その姿はあっぱれな文武木曾義仲の前に座った覚明は、言われる侭に願書

際に奈良へ送った書状の返事を書かされた。 に以仁王が平家打倒を企てて大津の三井寺に入った住では無かったが奈良にも行く機会が多く、一昨年たが出家して最乗坊信救を称するようになった。常院」に学び、蔵人道広 (くらんどみちひろ) と名乗ってい院」に学び、蔵人道広 (くらんどみちひろ) と名乗っていいったのであろう。この覚明という人物は儒者の家かったのであろう。この覚明という人物は儒者の家

「帰命頂礼(きみょうちょうらい=仏を礼拝する際に唱えると)された。 「帰命頂礼(きみょうちょうらい=仏を礼拝する際に唱える。 その地位を護り、人民を救済する為に三尊の黄る。 その地位を護り、人民を救済する為に三尊の黄る。 その地位を護り、人民を救済する為に三尊の黄る。 その地位を護り、人民を救済する為に三尊の黄る。 その地位を護り、人民を救済する為に三尊の黄る。 その地位を護り、人民を救済する為に三尊の黄る。 その地位を護り、人民を救済する際に唱えると

我が軍は兵力が十分では無く、兵も合戦の経験が少今此処に源平両軍が陣を布いて対戦しているが、

を仰ぐこと渇して水を求むるに似る。を討つこと疑いない。歓喜の涙あふれ、神仏の加護出来た。是により我らの願いが神仏の機微に達し敵源氏ゆかりの八幡宮を見出して社殿に拝することがない。その様な折りに奇しくも此の地に祭祀されたない。その様な折りに奇しくも此の地に祭祀された

輪に向かうようなものである。 「大きな車を測り、蟷螂(かまきり)が斧を怒らして大きな車がに兵を興したが、これを例えれば小さな貝を以てて八幡神を信仰している。今、此処に平家を討つたは八幡神を崇拝しており、此の義仲もその子孫とし子として帰依し名を八幡太郎と号してから其の一族我が曾祖父の前陸奥守義家朝臣は身を八幡神の氏

一つの瑞相を示し給え。 一つの瑞相を示し給え。 大に退け給え。 もし此の請願が成就されるならば、 がに堪えない。伏して願わくば神仏の冥顕に威を加びに堪えない。伏して願わくば神仏の冥顕に威を加びに堪えない。伏して願わくば神仏の冥顕に威を加びに堪えない。 神仏も此の為ではない。神仏も此の然しながら、是は国家の為、君(天皇)の為であり、然しながら、

羽の鳩が飛んで来て楯の前に現れ、異国の敵を退け 軍勢が弱く是が最後と言う時に天に祈ったところ三 うこうごう

=應神天皇の母)が新羅を攻めた際に、 は無いと判断されたから雲の中から三羽の鳩を飛ば 願書に添え、八幡大菩薩の寶殿に奉納したのである。 である。昔、 此の様子をご覧になって、八幡大菩薩は信心が嘘で 戦の合図などに用いる鏑矢(かぶらや)の先端を抜いて して蝦夷の安倍貞任・宗任を討った時に、敵陣に向 てくれた。又源氏の祖・源頼義朝臣が鎮守府将軍と 木曾軍の源氏の白旗の上を低空で旋回させたの 「是は私の火にあらず、神火である!」と言っ (の願書に添えて木曾義仲を始め幹部十三人が合 寿永二年五月十一日 仲哀天皇の妃であった神功皇后 源義仲 敬白」 味方の (じんぐ

に頼もしい限りである。いで身を清め、聖なる鳩を拝した心のうちはまこと曾義仲はこれらの先例を忘れず馬から降り、兜を脱の館(厨三城)を焼き払い安倍貞任・宗任は滅びた。木て火を放った。すると風が賊の方に吹き変わり安倍

倶利迦羅落(くりからおとし)のこと

し」でもあり「倶利迦羅落」でもある。を倶利迦羅谷へ落したのであるから「からくり落としたことになるのだが、木曾義仲は作戦で敵の主力したことになるのだが、木曾義仲は作戦で敵の主力

になったようである。 大軍を擁する平家は別に山中に入らなくても、平大軍を擁する平家は別に山中に入らないた筈な地で待っていれば楽に有利に合戦が進められた筈な地で待っていれば楽に有利に合戦が進められた筈な地で待っていれば楽に有利に合戦が進められた筈な地で待っていれば楽に有利に合戦が進められた筈な地で待っていれば楽に有利に山中に入らなくても、平

をしていた。次第に暗くなってきたので、北と南かなのである。それを覚られずに陽動作戦で時間稼ぎってから平家の大軍を倶利迦羅谷へ追い落とす作戦両軍睨み合いの侭で日が暮れた。実は源氏は暗くな方が勝負を急いだけれども、源氏が相手にならずに其の中に五十騎、百騎と出てくる人数が増えて双其の中に五十騎、百騎と出てくる人数が増えて双

を上げた。 に在った不動明王の御堂辺りで一度に鬨(とき)の声ら回った源氏の搦め手軍勢一万余騎は、俱利迦羅峠

前方の敵と遊んでいた?平家軍は思わず後方を見がほど掲げられている。「この山は四方が岩山であるいほど掲げられている。「この山は四方が岩山であるいほど掲げられている。「この山は四方が岩山であるいほど掲げられている。「この山は四方が岩山であるから、搦め手に源氏軍が回る事は無い…と思っていたのに、是はどうしたことか?」と怪しんでみてもから、搦め手に源氏軍が回る事は無い…と思っていた。 大手側の木曾義仲が発する命令で樹木の陰に控えて大手側の木曾義仲が発する命令で樹木の陰に控えていた源氏軍が一斉に攻撃を開始したから、その叫びいた源氏軍が一斉に攻撃を開始したから、その叫びいた源氏軍が一斉に攻撃する方は良いが、護る側は夢声が山中に響き渡って山も崩れるような勢いである。 では適当に逃げるしかなくなる。「見苦しいぞ。引きると何時の間に来たのか源氏軍の白旗が数え切れない。 大手側の木曾義仲が発する命令で樹木の陰に控えていた源氏軍が一斉に攻撃を開始したから、その叫びいた源氏軍が一方にと思っている。

nた頃) まで残っていると言われた。いた。付近の谷には矢の穴、刀疵が今 (平家物語が書かいた。付近の谷には矢の穴、刀疵が今 (平家物語が書か染まり、墜落死した死体は落ち重なって丘を成して集利迦羅谷の岩や谷川の水は武士たちの血で赤く

郎成澄の手に依って生け捕られた。
た備中国住人・瀬尾太郎兼康は加賀国住人・蔵光次や河内判官秀国も此の谷に埋もれ、大力を誇ってい平家が頼みとしていた侍大将の上総大夫判官忠綱

斎明威儀師も捕らわれ、木曾義仲に「憎みても余り越前国火打が城で平家方に寝返った平泉寺の長吏

千余騎に過ぎ無かったのである。

「おりであったが、生き残った兵力は僅かに二て加賀の国へ逃げて行った。攻めて来たのは七万余れた。平家の大将・維盛、通盛は危うい命が助かっある奴め!直ぐに斬れ」とスピード判決を言い渡さ

と。 (国利迦羅谷の合戦が有った翌日の五月十二日、木 (国利迦羅谷の合戦が有った翌日の五月十二日、木 (国利迦羅谷の合戦が有った翌日の五月十二日、木 (国利迦羅谷の合戦が有った翌日の五月十二日、木 (国利迦羅谷の合戦が有った翌日の五月十二日、木 (国利迦羅谷の合戦が有った翌日の五月十二日、木 (国利迦羅谷の合戦が有った翌日の五月十二日、木 (国利迦羅谷の合戦が有った翌日の五月十二日、木 (国利迦羅谷の合戦が有った翌日の五月十二日、木

本がて木曾義仲は「こちらの平家は追い払ったかやがて木曾義仲は「こちらの平家は追い払ったから心配は無いが、志保山に向けた十郎蔵人殿の様子ら心配は無いが、志保山に向けた十郎蔵人殿の様子ら心配は無いが、志保山に向けた十郎蔵人殿の様子の中から人馬を選び、二万余騎を率いて救援に向かの中から人馬を選び、二万余騎を率いて救援に向かが心配である。(火打合戦の項参照)」として手勢四万騎が心配は無いが、志保山に向けた十郎蔵人殿の様子ら心配は無いが、志保山に向けた十郎蔵人殿の様子ら心配は無いが、志保山に向けた十郎蔵人殿の様子がでは無く別の濱であったとする説もある。

平家も暫くは支えていたが遂に堪え切れず木曾軍にせた。両軍は激突し火花を散らす戦闘を繰り返し、じ、避難をしているところに木曾義仲が駆け付けた。し、避難をしているところに木曾義仲が駆け付けた。自、の本のはである」と状況を把握した義仲は、自気が率いて来た軍勢を平家軍三万余騎の中へ突入させた。両軍は激突し火花を散らすれて退却あり、十郎蔵人行家は敵に散々に蹴散らされて退却をいる。

を張ったのである。 新王塚 (崇神天皇皇子の大入杵命を祀る塚とされる) の前に陣 赤 保の山を越えて能登の小田中 (現・能登鹿島) に在る子) が討たれ、多くの武士が討死をした。木曾義仲は 攻略された。 平家方は大将軍の三河守知教 (清盛の末

篠原合戦(しのはらかっせん)のこと

とにした。 うしげちか=武蔵国に赴任した藤原一族から派生した武士団武蔵 景久(またのごろうかげひさ=大庭一族)、長井斎藤別当実 げ上り、平家に従っていた。主だった者は俣野五郎 く休業しようと申し合わせて、順番に酒宴を催すこ 家武士では無いので、大きな合戦の起こるまでは暫 の一つ児玉党の武士?)らであるが、彼らは根っからの平 希望で平家軍に従ったもの)、 も、曾我兄弟の叔父で頼朝の最初の妻の弟、頼朝に許され、本人の 盛(ながいのさいとうべっとうさねもり=巻第五、富士川のこと、 合戦で平家方に回った武士たちは、その後、 その頃、 伊藤九郎助氏(いとうくろうすけうじ= 真下四郎重直(ましものしろうしげちか=武蔵七党 治承四年に源頼朝が兵を挙げた石橋山 浮巣三郎重親(うきすのさぶろ 「祐清」と 都へ逃

☆ 斎藤実盛の所に集まった時に、主の斎藤別当が次の様に言った。「世の中の動きを見ると源氏が強くてい居ないで源氏方(未會殿○参ろうではないか…」と言えば一応は全員が賛成したのだが、次の日に浮と言えば一応は全員が賛成したのだが、次の日に浮と言えば一応は全員が賛成したのだが、次の日に浮と言えば一応は全員が賛成したのだが、次の日に浮と言えば一応は全員が賛成したのだが、次の日に浮と言えば一応は全員が賛成したのだが、次の日に浮と言えば一応は全員が賛成したのだが、次の日に浮と言えば一応は全員が登れる。

を落としたのは無残な事である。

を落としたのは無残な事である。

と決意を述べたので他の者も是に賛同し、そのぬ心算で、其の事は大臣(平宗盛)にも申し上げていぬ心算で、其の事は大臣(平宗盛)にも申し上げていぬ心算で、其の事は大臣(平宗盛)にも申し上げていぬい算で、其の事は大臣(平宗盛)にも申し上げている。上度と都へは戻ら自の覚悟を試す為に言ったので、此の実盛は今度の自の覚悟を試す為に言ったので、此の実盛は今度の自の覚悟を試す為に言ったので、此の実盛は今度の

して加賀国篠原に陣を布いた。 その間に(敗戦の後)平家は人馬を休息させ軍を再編

先陣に出た。 生の場所は現在の石川県小松市と加賀市の中間辺 大神に出た。 本部では の場所は現在の石川県小松市と加賀市の中間辺 が未だ朝食を摂り終わらないうちに木曾軍が押し寄 が未だ朝食を摂り終わらないうちに木曾軍が押し寄 が未だ朝食を摂り終わらないうちに木曾軍が押し寄 が未だ朝食を摂り終わらないうちに木曾軍が押し寄 が未だ朝食を摂り終わらないうちに木曾軍が押し寄 が未だ朝食を摂り終わらないうちに木曾軍が押し寄 が未だ朝食を摂り終わらないうちに木曾軍が押し寄 が未だ朝食を摂り終わらないうちに木曾軍が押し寄 が未だ朝食を摂り終わらないうちに木曾軍が押し寄 が未だ朝食をあいた。彼ら兄弟は三百余騎を率いて と北国行きを命じた。彼ら兄弟は三百余騎を率いて と北国行きを命じた。彼ら兄弟は三百余騎を率いて と北国行きを命じた。彼ら兄弟は三百余騎を率いて

どろで死闘を繰り返した。其の日は旧暦五月二十一の中に両方が乱れ合っての合戦となり両軍共に汗み初めは五騎、十騎でテストを繰り返していたが、そ木曾方は今井四郎兼平が三百余騎で是を迎え討ち

り力及ばずに其処を退いた。ったが畠山は家の子・郎等が討たれて残り少なくなったが畠山は家の子・郎等が討たれて残り少なくなけて暑い。合戦は手を抜けば負けるので汗を拭いて日、時刻は真昼の十二時頃であるから太陽が照り付日、時刻は真昼の十二時頃であるから太陽が照り付

のでは戦場を離脱するしか無い。
といいに、対して木曾方からは樋口次郎兼光、落合五郎兼是に対して木曾方から逃走してしまった。高橋判官も心地から駈り集めた兵だった為に直接の戦闘は避けて地から駈り集めた兵だった為に直接の戦闘は避けて地から駈り集めた兵だった為に直接の戦闘は避けて地から駈り集めた兵だった為に直接の戦闘は避けて地から駈り集めた。曹くは平家方が敵の攻撃といいに対して大僧方から高橋判官長綱が五百余騎で進み、次に平家方から高橋判官長綱が五百余騎で進み、次に平家方から高橋判官長綱が五百余騎で進み、

答えるしかない。

「越中国の住人、入善小太郎行重、生年十八歳」とを聞こう…」と言えば、少しタイミングはズレたが強い。入善を捕まえて鞍に押し付け「君は誰だ?名を聞こう…」と言えば、少しタイミングはズレたが強い。入善を捕まえて鞍に押し付け「君は誰だ?名を聞こう…」と言えば、少しタイミングはぶレたが良い人・入善小太郎行重(にゅうぜんこたろうゆきしげ)が良い人・入善小太郎行重(にゅうぜんこたろうゆきしげ)が良い人・入善小太郎行重、というだい。

表直に答えられると、高橋も首を取るのが気の毒を設すつもりになった。神妙に話しを聞く振りをしたかれた。命拾いをした小太郎は礼の一言でも述べて、その場を立ち去るのが普通だけれども、合戦のて、その場を立ち去るのが普通だけれども、合戦のた。命拾いをした小太郎は礼の一言でも述べて、その場を立ち去るのが普通だけれども、合戦のを殺すつもりになった。神妙に話しを関すつもりになった。神妙に話しをでいるから、やたらと功名心に逸(はや)って自分を助けてくれた恩人を設すつもりになった。神妙に話しを聞く振りをしたから、かたらと功名心に逸(はや)って自分を助けてくれた恩人を設すつもりになった。神妙に話しを聞く振りをした。そこへ小太のを殺すつもりになった。神妙に話しを聞く振りをした。そこへ小太のを殺すつもりになった。

こういう卑劣な話は聞きたく無いと思う。人掛かりで高橋を討った。如何に戦場とは言っても、郎の家来が三騎、主人に遅れて来たので協力して四

者は戦場を落ちて行った。

者は戦場を落ちて行った。
一方、平家方から武蔵三郎左衛門有国が三百騎ほどで喚声を上げながら攻めよせ、それを迎えて源氏にで対死した。一方の大将が、こう言う状況であた侭で討死した。一方の大将が、平家方の兵力が少ないからまでは仁科、高梨、山田次郎などが五百余騎で防戦しまでで対死した。一方の下がが、平家方の兵力が少ないからまは一方、平家方から武蔵三郎左衛門有国が三百騎ほ一方、平家方から武蔵三郎左衛門有国が三百騎ほ

真盛(さねもり)のこと

ま題は短くなっているが、此の章段の主人公は「巻 素題は短くなっているが、此の章段の主人公は「巻 表題は短くなっているが、此の章段の主人公は「巻 表題は短くなっているが、此の章段の主人公は「巻 表題は短くなっているが、此の章段の主人公は「巻

んでハた。 鷲や鷹の羽で黒白の斑(まだら)模様が有るものを選

に前後を金で装飾した鞍を置いて乗っていた。 馬は「倶利迦羅谷落」の章段に出て来た連銭葦毛

残って御出でになるのは誠に優れた武将とお見受け「お味方の軍勢は逃げて行かれたのに、只一騎だけ立つ。木曾方から諏訪神社神官の一族で源氏の流れ立の。木曾方から諏訪神社神官の一族で源氏の流れ其処に只一騎、派手な格好で頑張って居る武士は目其処に只一騎、派手な格好で頑張って居る武士は目

お名前をお聞かせ願いたい…」

組んで来た。

組んで来た。

組んで来た。

・は、手塚広の家臣が駆け付けて来て、主人を庇(かば)うようにの家臣が駆け付けて来て、主人を庇(かば)うようにの家臣が駆け付けて来て、主人を庇(かば)うように利んで来た。」と逆に聞いてきた。「信濃国の住人、手塚太和に思うところが有って名乗ることが出来ない。先私に思うところが有って名乗ることが出来ない。先知の家臣が駆け付けて来て、主人を庇(かば)うように表すると実盛は「その様に言われる貴方はどなたであれると実盛は「その様に言われる貴方はどなたであれると実盛は「その様に言われる貴方はどなたであれると実盛は「その様に言われる貴方はどなたであれると実盛は「その様に言われる貴方はどなたであれると実盛は「その様に言われる貴方はどなたであれると表情にあれる。

駆け付けて首を取ったのである。

駆け付けて首を取ったのである。

実盛は其れを受けて「あっぱれ!お前は日本一の実盛は其れを引き上げ太刀で二回刺した。歴戦の勇者でも垂れを引き上げ太刀で二回刺した。歴戦の勇者でも垂れを引き上げ太刀で二回刺した。手塚太郎は家臣が散の前に押しつけて首を斬った。手塚太郎は家臣が武者と組んでいるのだぞ!」と言って敵を引き寄せ武者と組んでいるのだぞ!」と言って敵を引き寄せ武者と組んでいるのだぞ!」と言って敵を引き寄せ

声は坂東訛(なま)りでした」と言えば木曾義仲は首付いている家臣も居らず、名乗りを求めても答えず、えば錦の衣装を身に着けており、大将軍かと思えばで首を取りましたが、此の相手は一般の武士かと思付け「この光盛が不思議な武将に出会い、組み打ち手塚太郎は、その首を持って木曾義仲の前に駆け

念のために見せてみよう」と言った。 総工に見え無い。樋口次郎兼光が親しかったので、が幼い頃に上野国に行く時に会った年齢からして、 既に後期高齢者の筈であり頭髪が白くなければなら 既に後期高齢者の筈であり頭髪が白くなければなら 既に後期高齢者の筈であり頭髪が白くなければなら のと思われるが、それならば、此の義仲 をじっと見て「あっぱれなる最後の様子からして斎

さい」と申し述べた。その様にして見ると斎藤実盛 藤別当に会って話をした際に "六十歳を過ぎて戦場 きちんと残して置かねばならないのですね。私は斎 ました。弓矢取る身の覚悟として言い残すことは、 るか?」と問えば、樋口次郎はハラハラと涙を流し す!」言った。義仲は「それならば、今は年齢が七十 いたわしいことか、これは間違い無く斎藤別当殿で の首は白髪の首になってしまった。 していたのですね。どうか髪を洗わせてからご覧下 いから…』と言っておりました。本当に、その様に 大人げ無いが、老武者と侮(あなど)られるのも悔し に向かう時は髪の毛や髭は黒く染めて若者のように を過ぎている。白髪である筈が黒髪なのはなぜであ にも哀れで (実盛の心情が) 不覚にも涙にくれてしまい しようと思う。其の訳は若武者達と先陣を競うのも 「その経緯をお話ししなければなりませんが、余り 呼ばれた樋口は、 一目見た瞬間に「ああ、 何とお

きまして私は越前国の者ですが近年は武蔵国の長井うについては対死をする覚悟でおります。それについては、斎藤実盛が出陣に際して最後の暇乞いについては、斎藤実盛が出陣に際して最後の暇乞いについては、斎藤実盛が出陣に際して最後の暇乞いにかいては、斎藤実盛が出陣に際して最後の暇乞いまた、将軍並みに錦の直垂を身に着けて居たことまた、将軍並みに錦の直垂を身に着けて居たこと

に領地を頂いております。

されたと言われる。 宗盛も「健気 (けなげ) なことである」と錦の直垂を許是非、錦の直垂をお許し下さい…」と願ったので、譬えにも、故郷へは錦を着て帰れ!と申しますので

いことである。
せの中国の話であるが朱買臣(しゅばいしん)は苦学して前漢の武帝に仕え故郷の会稽山に錦の袂(たもと)けを残して屍(かばね)は北陸道に散ったことは悲しけを残して屍(かばね)は北陸道に散ったことは悲しけを残して屍(かばね)は北陸道に散ったことは悲しけを残して屍(かばね)は北陸道に散ったことは悲して前漢の武帝に仕え故郷の会稽山に錦の袂(たもと)は苦学

(続く)

編集事務局 〒315-0001

石岡市石岡13979‐2

(白井啓治方)

http://www.furusato-kaze.com/